

低環境負荷のHFC・32空調機

累計販売1000万台達成

ダイキン工業

全世界に特許すら無償開放

ダイキン工業（本社・大阪市・

十河政則社長兼CEO）は、環境負荷の低い（地球温暖化冷媒）のHFC



HFC-32空調機の代表選手、ダイキンの「うるさら7」（ダイキン工業）

C・32（R32）を使ったエアコンの累積販売台数で、このほど世界50カ国以上、1000万台の「金字塔」を打ち立てた。

HFC・32は、地球温暖化係数約3分の1という優れた特性を持つ新しい冷媒で、従来のHFC・22やR-410Aの代替として、全世界的に利用件数が急増している「注目アイテム」。

実は同社、このHFC・32を使ったルームエアコンを2012年11月に世界で初めて販売したことも有名で、今回の快挙を約4年で達成したことになる。

また、同冷媒の普及にも同社は非常に熱心である。

特に驚きなのが、これに関わる特許の無償開放を英断したことだ。2011年9月に、同冷媒を用いた空調機の製造・販売に関する特許の無償開放を、まずは新興国に対し

て実施、2015年には、これを先進国も含めた全世界へと拡大した。

加えて、アフターサービス回りのノウハウの伝授にも熱心で、タイやインドなどの新興国を舞台に積極的に技術支援を続けている。

例えば、前者の場合、2015年4月～2017年3月に、経産省の国際協力方針に基づいて、冷媒転換プロジェクトの中心メンバーとして参画。現地の空調メーカー10社に対し、据え付けや修理のトレーニングを実施、現在ではこの10社総てがHFC・32空調機の製造・販売に乗り出していると言う。

一方、後者でも、2012年6月～2014年3月に、HFC・32インバーターエアコンのCO2排出削減量効果に実証試験を展開。

その規模は、12都市で76回に及び、現地の技術者約3600人に同空調機の据え付け工事・メンテナンス方

法を伝授、並行して同国の省エネ制度の設立にもひと役買っている。

現地の人達がこの冷媒を適切に扱えるようになれば、HFC・32の普及に大いに貢献し、ひいては地球環境に寄与する――。

空調機メーカーの「矜持」と言ってもいいだろう。

約4700万tの削減効果

こうした同社の取り組みが功を奏してか、現在日本の空調機メーカー全社がHFC・32空調機を販売、今や業界のデファクトスタンダードとなっているほど。

加えて、前述のタイやインドは、我が国に次いで同空調機の販売台数が多い国となっている模様。他社の製品も含めたHFC・32空調機の世界販売実績は、2017年3月末現在で2700万台以上というから、何とも驚きだ。

ちなみに、これによるCO2排出抑制効果は、約4700万tに上る（HFC・22、R-410Aを継続使用した場合との比較）。

地球温暖化阻止のための、ダイキンによる、「熱い」ならぬ「冷たい戦い」に、今後も目が離せない。